

# 琉球大学学術リポジトリ

## 風害後の森林の手入れ

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 諸見里, 秀宰, Moromizato, Shusai メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20209">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20209</a>

ています。

琉球。パイン産業に關係して三年私は栽培方面に於て極めてうれしい知見の二、三を得ることが出来ました。第一には琉球に於ては一回收穫後吸芽の発生が極めてよく、反当收穫量は既に台湾のそれに匹敵し、将来更に増加し得る可能性があり、しかもその機会が非帯に早くくるであろうと言うこととです。品種の改善も台湾では終戦後十年を経て漸く到達しつつありますが琉球は民政府やハワイ在住の琉球出身者の尽力によって極めて短期間に出来をうであります。又ホルモン利用による製造期間の延長やあるいは成熟期間の短縮と冬実の欠点を少くする為のホルモン利用も既に成功に達しました。

私は来年の苦難を克服し新しい方針の下に、パイン

産業が検討され、各種の問題が解決されるならば琉球のパイン産業の将来は極めて明るいものになるであろうことを申し上げ各位の御健闘をお祈りする次第であります。

最後に過去四回の渡琉に当り、私に注がれた関係者各位の御厚情に対し満腔の謝意を申し上げます。以上で琉球パイン産業に対する私の考え方は御了承を得たものと思いますが、琉球自体のパイン産業をどの程度に進展さすか、そして具体的対策をいかにするかと言うことや、生産者と工場側の協調方式をいかにするかと言う事は、今後パイン産業審議会で十分検討せられるべき問題で、私が是れ以上言うべきことではない。若し私が言わなければならぬ問題がありとすれば、それは栽培技術に関する問題である。前にも述べた如く、

## 風害後の森林の手入れ

例年のように今年もまた颱風に見舞われた。沖繩では、常に常風や颱風の害にそなえて対策に万全を期すことが大切である。すなわち、防風林、防潮林、屋敷林などの造成が必要なことはいくらでもない。また、森林では林縁木で林衣を常に発達形成させて、防風壁の役目がはたせるようにすることが肝要である。

本年の颱風は、戦前戦後を通じて最大なものといわれ、ことに宮古諸島の著しい被害状況が報じられている。颱風による被害から早く立ちなおらせ、風害後に生ずる色々な障害を排除するために手入れの必要なことはいうまでもない。風害後の

森林に対する手入れは、樹種、林令、被害状況などによりそれぞれ異なることはいうまでもないが、ここでは一般的な事項について述べる。

幼令林では、被害箇所早く補植を行い一様に森林を成立せしめるようにすることが大切である。補植は大苗を用いるか、または生長の早い樹種を用いて、樹高をほどひとしくさせるようにすると共に、林間空地をつくらないようにしなければならない。

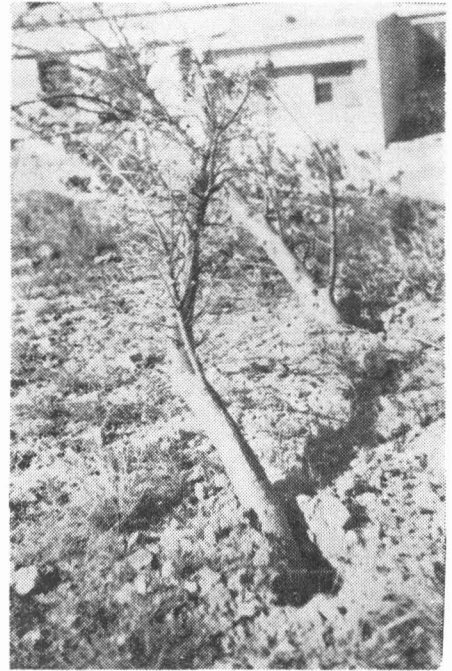
中令の林木では、被害程度が軽く単に傾斜したくらのものは、縄、藤蔓、鉄線などで起しやすいためのは全部引起し、隣接の健全木と連結したり

私はこの問題について最後のしめくりをするつもりで渡琉したのであるが、時宛もお盆休みや、田植えあるいはパイン果実收穫期に当り、しかもパイン栽培熟の暗落ちた時であったが為に、栽培者各位との話し合いも十分に行われなかった。しかし私は若し琉球のパイン産業が政策的にその基本方針が決定せられ、農民も謹詰業者も一致してパイン産業を推進しようということになれば、私はこうしなければ琉球の農家は救われなれないと思いません。最後に琉球のパイン産業の大勢を左右するものは生産費と品質であり、是等の二つこそはその後に残された最も重要な問題であると考えながら、今回私が琉球の一部で行った講演内容は別個の資料二、三を加えて本誌に報告し関係各位の御参考に供したいと思える次第である。(つづ)

(寄稿) 香川大学教授 農博 渡辺正一

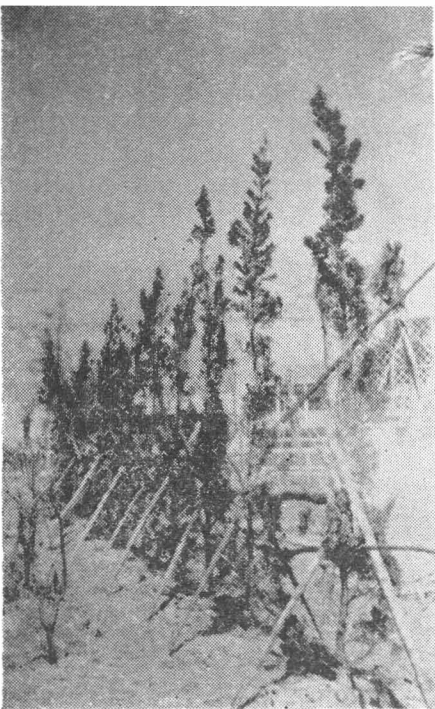
支柱をたてたりして倒伏を防ぎ、樹勢の回復をはかるようにする。この際、枝や幹の折れたものは切り下げる。また、恢復の見込のない風倒木や幹折れの樹木は、速に林外に伐倒搬出して取入の方法を講ずる。また、こうした森林で部分的に被害が大きく、相当の空地を生ずるような場合または日当りの相当よいところなどではモクマオウ、タインハンノキ、イジウなど生長の早い大苗か山引苗を用いて補植するか、シュロ、パンジロウ、ヤマモモなどの樹芸樹種を植えるのも一方法である。幹折れ木や風倒木などをそのまま放置しておく、キクイムシその他の害虫の発生の温床となるので注意しなければならない。また、折れた枝などは切り下げることが大切である。

(10ページにつづく)



写真の上右のように倒れた木は下の写真のよ  
うに引起してあげましょう。

上左のように折れた木は折れた部分から或い  
は成長の見込みがなければ根本から切りすて  
ましょう。



老令の林木では、保存の必要な場合は倒れかかったものでも、健全なものや恢復の見込みのあるものは、すべて枝葉を切りつめて引起す。また、幹折れ木や倒伏木で恢復の見込みのないものは、伐倒搬出して各種の用途にあてる。被害の著しい森林において経済上の理由で収入を多くあげたい場合には、健全にして生産力のある樹木を林縁部に一列または塊状に残し、その他は全部伐倒搬出して収入をあげ、跡地は開墾して作物を栽培し、なるべく早く造林するようにした方がよい。

海岸潮林や防風林は主にモクマオウで造成されているため、多数の幹折れや木や風倒木が生じていることと思われる。モクマオウは樹高が高く、また、非帯に重いため引起すことはほとんど不可能にちかいが、恢復の見込みのあるもので引起しの可能なものは引起し、不可能な樹木は伐採搬出し跡地には早く後継樹を仕立てるようにする、なお幹折れ木は折損部のや、下方から伐採し、早く萌芽を発生生長させて、林冠林衣を形成させるようにつとめなければならぬ。モクマオウの萌芽更新の際の伐採高については明らかでないが、防風林の防風効果は、樹幹、樹高の大きいもの程良いのであるべく折損部より伐採して伐採高を高くし、萌芽による樹高生長を高めるようにした方がよいように思われる。モクマオウは薪炭材としてきわめてすぐれているから、折損木や風倒木で伐採搬出されたものは薪炭材として利用すべきである。ただし、モクマオウは生材の場合は断薪割りは容易であるが、乾燥するとほとんど不可能に近いぐらいつつかしいので生材のときに早く断薪割りを行なわなければならない。

ある地方で幹折れの著しい幼中令の森林をそのまま放置してあるのを見かけたが、幹折れの樹木は早く伐倒搬出しないとキクイムシその他の害虫の発生源となることは前にも述べた通りである。風害後は森林の疎開によって林地が乾燥するため樹勢が衰弱しやすくなったが、キクイムシやその他の害虫が発生しやすくなる。風害後、害虫の発生により風害以上の被害をうけたという例が日本でも外国でも多数知られている。気候的に害虫の発生しやすいうち沖繩では、その点十分に注意する必要があると思われる。

なお、苗畑および街路樹について附記すると、苗畑では倒伏したものは引起し、折れた枝や梢は切り下げると共に、軽い中耕を行ない速効性の肥料を施して樹勢の恢復を図ることが大切なことはいうまでもない。街路樹、屋敷林など風致上保存すべき樹木で倒伏したものは、枝葉を切りつめて引起し、支柱をたてたり、縄、鉄線などで隣接の健全木に結びつける。また、折れた枝や梢などは切り下げ、懐枝を切りすかすなどの手入れが必要である。幹折れや恢復の見込みのない倒伏木は伐採搬出し、大苗をもって補植するかあるいは生長の早い樹木を植栽することが必要である。

吾々は毎年定期的な行事として台風を迎えている。また、台風銀座という有難くない名称さえいただいている。それにもかかわらず、農作物や森林に対する対策はほとんどなされていない状態である。台風を単に天災としてあきらめずそれを克服するために、森林では林衣の形成発達をうながし、農耕地や宅地には防風林、防風垣、屋敷林を造成するなど、ふだんから万全の対策を講ずることが必要である。(諸見里秀さい)

お知らせ

前号でお願いしてありました農家便りをおゆずりして下さった次の方々には深く感謝申し上げます。これは十月二十七日現在届いた分です。なお他に保管した方が居られましたらおゆずり願います。

- |             |        |
|-------------|--------|
| 糸満町駐在農改普及員  | 金城繁様   |
| 名護町駐在農改普及員  | 玉城吉雄様  |
| 石垣島測候所      | 大浜長功様  |
| 美里村登川一二五    | 新垣誠昌様  |
| 今帰仁村崎山      | 山城武雄様  |
| 宮古、上野中学校    | 職業科担任様 |
| 南大東村駐在農改普及員 | 屋嘉部長弘様 |
| 下地町駐在生改普及員  | 与那覇春子様 |
| 恩納村役所       | 大城保晴様  |
| 屋部村駐在農改普及員  | 仲栄真盛順様 |
| 羽地村我部祖河二六六  | 宮城善太様  |
| 平良市北宮嶺      | 長浜ユキ子様 |

発行所 琉球大学農家政工学部  
 発行人 島袋俊一  
 印刷 沖繩タイムス社

指令第一九八〇号  
 一九五九年十月二十五日印刷  
 一九五九年十一月一日発行